

Kudo Project “Swing-by” Seminar

Start!

2025年
9月2025年
10月2025年
11月2026年
1月2026年
5月2026年
8月

Finish!

Curriculum



社会保険労務士試験

Point!

●年金法を2回転学習

年金CONTRAST Basis (ペイシス) では公的年金の骨格となる公的年金制度の全体構造及び公的年金の給付と役割のほか年金財政も学習します。



●社会保険労務士のベンチマーク!「社会保障制度」とは何か?

Tool Box編「社会保障制度と意義と沿革」では平成20年以降の厚生労働白書により社会保障制度の成り立ちと沿革を学習し、今後を展望します。

●基本事項の横断で「関係法規の全体像を俯瞰

Tool Box編「基本事項の横断」では「社会保障制度の意義と沿革」にて社労士試験の対象となる法律全体を俯瞰し隣接する法律との接点があるかを考え目的条文の意味から講義します。



●「健康保険法」からStart!

医療保険(短期保険)の健康保険法、次に社会保険一般常識で国民健康保険法等を学習しながら、次の年金法(長期保険)のベースを構築していきます。

●「年金法」は年内に学習開始!

試験科目中、学習に一番時間をする「年金法」については復習に十分時間取れるようカリキュラム(INPUT)の前半で学習します。

●「国民年金法・厚生年金保険法」は「公的年金法」として「2階建て方式」で学習

近年の実例問題に対応するため「公的年金法」として2階建てで学習します。



●「労働一般常識」は核となる法律と融合しながら学習

労働基準法は、労働契約を結んだ後の労働条件に関する規制です。労働契約を結ぶということに対しては労働契約法が先になりますので、工藤ゼミでは労働契約法等、労働一般常識の法令のうち、労働基準関係法令を学習してから、労働基準法に入ります。

●Swing-by 改正・白書

「Swing-by 改正・白書」では、Tool Box編に続き最新の厚生労働白書・改正法を学習します。直前に情報を詰め込むのではなく、ゆとりある学習が狙いです。

●最新!本試験予想対策講義「公開講義」

公開講義では工藤講師オリジナル公開講義テキストを使用し、本試験において出題可能性の高い事項について講義を行います。2025年向けテーマは「年金財政の総仕上げ」を実施! (2026年向けテーマは2026年2月公開予定)

年金コントラスト Basis (ペイシス) (INPUT)

年金法の学び直しにあたっては、体幹を鍛えるが如く年金制度の基盤から再確認していくことが重要です。公的年金制度の構造について年金財政の検証方法をも含め根幹から掘り起します。年金法の大きな改正が見込まれる中、改正されても直ぐに年金財政を理解するための基礎となる Basis です。

Tool Box 編(INPUT)

まさに、工藤ゼミの真骨頂です。ツールボックス(道具箱)編とは、これから各法律を学習していくうえで必要となる道具をメンテナンスし整理しようというものです。道具が悪ければ法律の理解(既知の知識のメンテナンス)はできません。そこにメスを入れ、知識の中で一番贅肉化しやすい部分をシェイプアップします。具体的な手法として、2026年向けでは、まず、平成20年版以降の厚生労働白書を医療、年金、その他に分類し、社会保障制度の成り立ちと沿革を知り、今後を展望します。このことは、経過措置の多い年金科目を理解するうえで特に効果的です。次に科目ごとの共通

Swing-by編(INPUT)

ツールボックス編で磨き直した知識を基に、各法律の各論の集中学習を行います。本試験までに必要とされる法令を体系的にカリキュラム化し、関連する他の法令との繋がりを意識しながらしっかりとマスターしていただきます。

具体的には、社会保険法の基礎となる健康保険法等の医療保険制度を皮切りに、試験科目中、学習時間を一番要する年金法はカリキュラム前半に配置して展開します。なお、年金法は、国民年金法、厚生年金保険法と分けて学習するのではなく、近年の実例問題に対応するため2つの法令を「公的年金法」として初めて2階建て方式による完成形として学習します。労働法規については、とかく後回しにながちな労働に関する一般常

Summary編(OUTPUT)

直前期に欠かせないのが重要事項の確認と問題演習です。これを一体化し、より実戦的に、より効率的に構成したのが、工藤ゼミ独自のサマリー編です。毎回、厳選した「選択式8問」+「一問一答式 70問」を演習する、言わばミニマム模試です。科目ごとに実施する演習形式では、予習復習がその科目に集中してしまい、他の科目がおろそかになります。そこで、毎回全科目に万遍なく注力して頂き、本試験水準の問題により「何が問われるのか?」を明確にし、実戦力とモチベーションアップを図っていくのがこの講座の狙いです。サマリー編は、もはや講師と受講生の対決です。

実力完成講座OPUSシリーズ(INPUT) 全10回(別売)

✓ コースオプション講座でさらに実力アップ!

なぜ? どうなるのか知識を整理したい掘り下げたい方向け!

工藤講師実力完成講座OPUSシリーズ

ロジックで理解すべきベスト10

※実力完成講座OPUSの詳細につきましては、p.12 p.13をご確認ください

「繰り返し学習」を体系化したカリキュラム!

✓ 年金コントラスト (Basis) (INPUT)

+

✓ Tool Box 編 (INPUT)

✓ Swing-by 編 (INPUT)

✓ Summary 編 (OUTPUT)

法体系や趣旨、他の制度等のつながりや違いといった基本事項を理解・整理を繰り返すことにより、確実に定着させていくことがコンセプト!

項目を横断的に斬り、集約させていきます。単なる横断ではなく、制度趣旨的な部分を重視した集約です。また、年金制度等についても、制度設計をしっかり学習していただき、土台を作ります。このことにより、例えば難解な改定率(再評価率)の改定や年金額の推移等を暗記することなく理解できることになります。当ゼミなら、年金相談などでも早見表を使わなくても電卓一丁あれば、その場で正確な回答ができます。工藤ゼミは、常に「…だから、そうだったのか!」という「気付き」を覚えます。

識分野を本試験で核となる科目と融合しながら講義展開をします。一例を挙げるならば、労働基準法については、労働契約法や労働組合法などを理解したうえで労働基準法を学習し、労働市場法規については、労働施策総合推進法及び職業安定法などを理解したうえで雇用保険法を学習するといった具合に、単なる1科目としてではなくジャンル別に深掘りし、総合的に仕上げていく講義展開となります。なお、労働安全衛生法や労働保険徴収法のように、むしろ短期集中の方が効果的なものについては最終段階で学習します。その他、今後の動向を見ながら新たな試験方法に対応できるよう公開講座を設けています。まさに再受験者向けに練られた他に類を見ない工藤講師オリジナルカリキュラムです。

工藤講師 VS 工藤ゼミ生

本試験レベルの問題で「重要論点確認」

選択式 8問 (各科目×8科目)

一問一答式 70問 (各科目 10問×7科目)

問題演習 85分

解説講義 85分

最終カリキュラムは「アウトプット形式」で重要事項総まとめ

毎回、全科目満遍なく注力し「何が問われるのか?」

本試験レベルで論点を確認します。

直前対策強化パック 全8回(別売)

判例マスター講座

2.5時間× 2回

選択式予想講座

2.5時間× 2回

年金横断講座

2.5時間× 4回



※直前対策強化パックの詳細につきましては、p.26 p.27をご確認ください